

令和5年度第1回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会協議内容

日時 2023/10/31 (火) 15:15~16:30

会場 東かがわ市引田公民館3階ホール

会長あいさつ

本会は行政主体の堅苦しい会ではなく、委員が気軽に前向きな意見を共有できる場ととらえてほしい。地域の皆さんの、お出かけをサポートするという視点で取り組んでいただければと思う。

タクシーチケット実証実験の中間報告について

○資料2にて事務局より実証実験の中間報告を説明

委員) 1,000円未満の利用とは仮に990円の運賃の場合、チケット1枚と現金240円の支払いということか。複数人での利用について、1,500円以上の運賃であれば二人で乗車した場合各人が1枚ずつ利用できるということか。

事務局) お見込みのとおり。

委員) この利用者数や利用実績は、いつ時点のデータで一日当たりの平均利用者数はどうか。

事務局) 7~9月までの3か月分に10月の一部データが含まれており、3か月強の実績である。

委員) 価格帯の1,000円未満の利用が多いとあるが、どういった利用か分かるか。

事務局) 詳細な分析は、まだだが、近くのスーパーへの買い物や病院への通院利用と思われる。

委員) 午前中の9時、11時台の利用が多いとのことだが、どういった利用傾向があるか。9時台に病院に行って11時に帰る通院利用等の傾向があるか。また、地区別の利用状況で、山間部と中心部等の特徴的な傾向は確認できたか。

事務局) 目的地の詳細な分析はできていないが、通院目的での利用が多く、午前中の通院利用の影響は大きいと思われる。また、地区別の利用状況については、中心部や山間部等に特徴的な傾向までは確認できていない。ただ、山間部の一部では利用率が高いところもあったので、完了後にはその辺りの分析も検討したい。

委員) 1枚も利用していない人が多い原因は分かるか。また、10枚使いきっている方の傾向は。

事務局) 10枚使いきっている方は、普段からタクシーを利用している方が、普段使いで利用したものと思われる。利用が少ないのは、普段タクシーを利用していない方が、実験に際して申請はしたが、普段使わないため、利用につながっていないものと思われる。事業者のヒアリングでもこの事業で新規の利用者も増えたとの声もあり、後半の利用増に期待したい。

委員) 前回の実験では、チケットは午後のみ利用可能だったが、今回の実験で午前も利用できるようにしたことで、事業者に影響はあったか。

事務局) 前回の実験ではタクシーの効率的な運行に資するため、繁忙時間帯である午前中を避けた制度としたが、利用した人から午前中の利用を希望する意見が多く寄せられたため、事業者とも協議した結果、今回は午前中の利用を認めた経緯がある。これまでの事業者へのヒアリングでも特段大きなトラブルはないと伺っている。

委員) 介護が必要な方は利用できないのか。

事務局) 介護タクシー事業者も1社利用可能。また、本人が乗車すれば介助者等の同乗も可能。

委員) 免許返納者を対象としたことで、今後の免許返納促進にも効果が期待される。今回の実験

でタクシーを新規で利用する方がどの程度いたかや、どの程度外出促進に寄与したかもわかればと思う。また、地区別の利用状況を地図に落とし込むことで、見えてくることもあると思う。事務局) 分析を検討する。

白鳥温泉の閉館に伴う五名福栄線の利用状況調査報告について

○資料3にて事務局より実証実験の中間報告を説明

委員) データからも白鳥温泉目的での利用が多かったこと、閉館に伴い利用者数が大幅に減っていることは分かった。運行主体の大川バスとして、何か補足等はないか。

委員) 社内の調査でも想定していたより利用者数は減少している。コロナ前と比較しても2/3程度に落ち込んでいる。休日は白鳥温泉の利用を想定したダイヤにしていたので、やむを得ない部分はある。減便を考えなければ、路線の維持が難しいのが現状だが、路線を無くすことだけは避けたいので、半数程度までの減便をふまえたダイヤ改正を検討している。

委員) 分析の内容は評価するが、その目的は何なのかが分かりにくい。減便するための調査のようにも感じてしまう。この結果を受けてどうするかをこの場で話し合うべきなのではないか。

委員) 東北での実証実験でそれまで2時間に1本だった路線バスを1時間に1本にしたところ、バス停が利用者の集まる場になったようなケースもある。ダイヤ改正にはそうした視点も必要と思う。住民の意見を聞くなど、減便の影響を調査する必要もあるのではないか。

委員) 白鳥温泉方面の便を休止したことに対して地域の声はどうか。

事務局) 従来から白鳥温泉方面の便は白鳥温泉以外のバス停の利用者がほとんどおらず、市や大川バスへのクレーム等は聞いていない。また、3月末に白鳥温泉を閉館した後も6月末までは、従来どおり運行し、利用者がほとんどないことを確認してから休止されている。

委員) 利用状況などからも減便を伴うダイヤ改正もやむを得ないのではないかと考えている。減便による影響把握は検討する必要がある。

委員) タクシーチケットなど他の制度も併せて地域の方が困らないようにする考えが必要

その他について

委員) 昨年度大川バスとJRの協働で実施したモーダルミックス実証実験について、実装に向けた検討を市と大川バス、JRの三者で行っている。

委員) 地域公共交通計画が策定されて今年度で3年がたつ。3年間の実績や進捗状況について、次回の協議会では説明してほしい。

事務局) 分析を検討する。

委員) 安戸池を中心に地域内に点在する観光資源や飲食等を結び付け、市内周遊を促すため、電動レンタサイクル等の二次交通の環境整備事業を予定している。安戸池をハブ拠点にシェアサービス事業の実装のため観光用EV車とソーラーカーポートの整備等も実施予定。2025年の瀬戸内芸術祭の会場に引田地区が選ばれており、新たな交通手段を構築できればと考えている。

委員) 引田線と五名福栄線に香川大学のシステムを活用したバスロケシステムの実験をしている。市のHPでも周知している。

委員) バスロケの周知については、バス内での掲示等も検討してほしい。

委員) ぐらしの足フォーラムが来月東京で開催される。本会のきっかけともなった会であり、機会があれば参加いただければありがたい。

以上